

Injury Alert (傷害速報)類似事例

玩具のパーツによる食道異物、縦隔膿瘍 (No. 61 玩具のパーツの誤嚥による窒息の類似事例1)

事例	年齢：1歳6か月 性別：男児 体重：9.7kg 身長：76cm	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	玩具のプラスチックパーツの一部 (飲み込んだパーツは1×1×2cm) (図1, 2)	
臨床診断名	食道異物、縦隔膿瘍	
医療費	1,462,700円	
発生状況	発生場所	自宅のリビング
	周囲の人・状況	父と兄(3歳)と一緒に玩具の片付けをしていた。母は外出中であった。
	発生年月日・時刻	2017年2月8日 午後7時30分頃
	発生時の詳しい様子 と経緯	患児が玩具を口に含んでいるのを兄が発見した。父が口腔内より掻き出すようにして玩具を1つ取り出した。その後、機嫌が悪く啼泣時にはチアノーゼも認められるようになった。2月9日に医療機関を受診、吸入と抗菌薬の投薬を受け帰宅した。同日夜から発熱を認めたため、翌2月10日に同じ医療機関を受診した。その際の血液検査でCRPの上昇を認めたため、総合病院に紹介された。総合病院で施行されたCT所見より、食道異物が疑われたため、高次医療機関に救急搬送となった。
治療経過と予後	<p>消化器内科に依頼し、全身麻酔下で内視鏡を用いて異物(図1, 2)を除去した。除去時に食道内へ膿の流出を認めた。術後の造影CT検査で、食道と椎体の間に膿瘍の形成があり、気管への圧迫に伴う呼吸困難の出現が危惧されたため、挿管したまま帰室した。術後7日目に抜管し、抗菌薬の静脈内投与は2週間継続した。2週間後には、炎症反応も正常化し、造影CT検査でも膿瘍の消失を確認した。誤飲から24日目に後遺症なく退院した。</p> <p>2月8日に口に含んでいた玩具は2つで、一つは父によって取り出されたが、もう一つは飲み込んでいた。</p>	

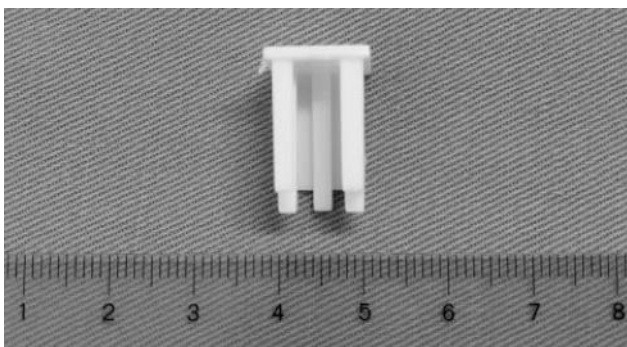
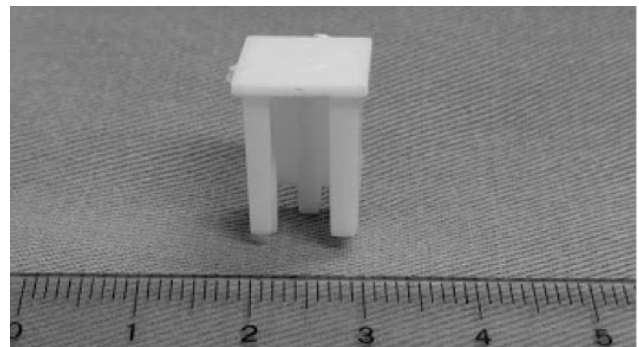


図1. 食道内から摘出された異物(側面)

図2. 食道内から摘出された異物
(斜め上方から見たもの)